

# 江戸時代、篠栗の村々の職業構成

『表粕屋郡戸原触郡鑑』(享保20年〔1735〕) 卯8月、粕屋町所蔵)は、当時の篠栗の村々の農業と生活を知るのによい資料です。一部を表にまとめてみました。

現在の篠栗町に該当する範囲には10の村があり、それは今の大字と重なっています。農業戸数は田中村の20戸を最小に、篠栗村と尾仲村は90戸程度で特に多く、その他各村はほとんど35戸以下ですが、小さな村でも庄屋がいました。村には農業に従事して

暮らし、その百姓の耕作に従事する人と思われま。遊民というのは、土地を失った百姓が村に住み、農業の仕事に雇われて生活しているものと思われま。さらに同書には、これら各村の非農業従事者の職種を記載しています。内訳を見ると、最も多いのが猟師で、全村で19人のほりま。篠栗村に11人、萩尾村に4人、若杉村に3人、高田村に1人です。その次に多いのが大工の5人で、社人(神官)と医師は4人ずついました。山伏は若杉村に2人、馬医(獣医師)は篠栗村に1人、乙犬村に1人いました。また桶屋と紺屋(染物業)が2人

いても、百姓と呼ばれない人がいて、それらの人は名子、遊民と呼ばれて

いました。名子というのは、おそらく中世から大きな百姓の屋敷の一隅に

表 村別に見た職業構成

項目 村名	農業従事者			非農業従事者
	百姓	名子	遊民	
和田	48	-	-	医師1人、社人2人、紺屋1人
津波黒	27	-	-	惣ノ市1人、桶屋1人
田中	20	5	-	
高田	28	2	1	猟師1人、紺屋1人
萩尾	21	-	-	猟師4人
金出	32	-	-	座頭1人
篠栗	91	6	13	猟師11人、大工2人、医師1人、酒場1軒、靴屋1軒、馬医1人、大鋸1人
若杉	35	-	-	猟師3人、山伏2人、大工1人
尾仲	90	-	6	大工2人、社人1人、鍛冶1人
乙犬	59	-	7	医師2人、社人1人、馬医1人、桶屋1人

注1)『表粕屋郡戸原触郡鑑』より作成  
注2) 単位: 百姓、名子、遊民は戸。非農業従事者は表中に示す。

ずついました。桶屋は津波黒村と乙犬村に、紺屋は和田村と高田村に各1人です。

全村で1人あるいは1軒の職種は、尾仲村の鍛冶屋、金出村の座頭(頭をそり、目が不自由な人)、篠栗村の糶屋(酒・

みそ・しょう油などを製造するのに用いる糶菌を作る)、篠栗村の大鋸(木の伐り倒しや製材)、津波黒の惣の市(雜貨屋)、篠栗村の酒場(酒造所のことか)と記載されています。

篠栗村、萩尾村、若杉村に猟師で生計を立てる者が19人もいたことに興味を引かれます。また田中村を除く9の村に、さまざまな職業の人がいた

ことに注目すべきです。当時の百姓の生活のかなりの部分は自給自足だったと思われま。しかし、このように多くの職業の人が存在していたことは、商品経済の浸透が相当進んでいたことをうかがわせま。

『田中村明細帳』(寛政5年〔1793〕)には「耕作も透之時節繩蒔之拵市中二石炭を持出女茂男之業を働或木綿加工致事(耕作も暇な時節繩蒔を拵え、市中に石炭を販売し、女も男の仕事に働き、あるいは木綿加工をいたすこと)と書かれていて、石炭を掘り出して売ったり、木綿織物を売ったりしたのでしょ。ほかに馬を使った